

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 2009年7月14日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670900218
法人名	社会福祉法人 大一会
事業所名	グループホーム 鈴蘭
所在地	伊佐市大口宮人463-30 (電 話) 0995-23-0139
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54-15
訪問調査日	平成21年7月14日

【情報提供票より】(21年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 8 月 20 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	28 人	常勤 23 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	27.37 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性 6 名	女性 21 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名
要介護3	7 名	要介護4	3 名
要介護5	5 名	要支援2	0 名
年齢 平均	85.8 歳	最低 61 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大保川添クリニック・たけ歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

薩摩半島の北部に位置し、温暖な気候と人情味あふれ、自然環境に恵まれている。玄関を入りリビングへぬけると心地よい共有空間が広がりこころ和まされ、入居者だけでなく、来訪者も自然と和やかな雰囲気に取り込まれてしまう。また、隣接する高齢者施設や障害者支援施設が入居者・家族の安心感を生みだし、安心して毎日を過ごしている。職員の意欲向上のため、職員主体の各種委員会を法人内に設置し、働きやすい職場を構築しており、職員同士が仲がよく、利用者にも笑顔が伝わり、楽しい雰囲気が感じ取れる。ユニットごとの理念を職員全員で見直し、共有することで、日々のケアの実践に結びつき、管理者・スタッフも家族のように接し支援の向上に結び付けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員ミーティングで改善事項についてできることから改善するように話し合わせ、評価結果は誰もが閲覧できるように玄関や廊下等に設置されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員一部ずつ作成し話し合った結果をまとめた。その作業は職員が外部評価の意義を確認し目指す方向や課題を考える機会になったと認識している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域住民や入居者、家族の代表・保育園園長・民生委員・ヘルパ・事業所、市、包括支援センターからの参加があり、議事録より、事業所の報告のみではなく、出席者からの意見や助言などを今後の運営に活かそうとしている事業所の姿勢がうかがえる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	行事等に家族に集ってもらうなど日頃から職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りを努めており、家族との会話の中から要望をくみ取るようにしている。苦情相談窓口については玄関に掲示し利用開始時には文書により家族に知らせている。また、職員が苦情等を把握した時には管理者や他の職員と共有し解決を図っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の催事に積極的に参加している。保育園、小学校やボランティアの受け入れをおこない、誕生会や交流会に招待するなど工夫が伺え、関係法人の温泉施設を利用した地域の方が日常的にホームに立ち寄ってもらえる関係もできている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割が意識できるようにユニットごとに毎年職員で見直された理念がある。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、毎年会議で見直しを行っている。問題があるときは、理念の具体的な実践について研修を行い、話し合われている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の催事に積極的に参加している。保育園、小学校やボランティアの受け入れを行い、誕生会や交流会に招待するなどの工夫が伺える。関係法人の温泉施設を利用した地域の方が日常的にホームに立ち寄ってもらえる関係もできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員ミーティングで改善事項についてできることから改善するように話し合われ、評価結果は誰もが閲覧できるように玄関や廊下等に設置されている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民や入居者、家族の代表・保育園園長・民生委員・ヘルパー事業所、市、包括支援センターからの参加があり、議事録より、事業所の報告のみではなく、出席者からの意見や助言などを今後の運営に活かそうとしている事業所の姿勢がうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の訪問や実習を受け入れたり、市担当窓口などへ事務手続き等その他の機会に頻りに訪問したりして情報交換を行っている。また、行政を交えた地域密着連絡協議会を立ち上げるなど協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に行事や暮らしぶりを載せた広報誌を発行し金銭管理状況と入居者の様子を載せた経過記録を家族訪問時に報告している。また遠方の家族にはビデオや入居者が作ったお菓子を送る等工夫がされている。入居者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話等で家族への報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事等に家族に集まってもらうなど機会を作り親交を深め、日頃から職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りに努めており、家族との会話の中から要望をくみ取るようにしている。苦情相談窓口については玄関に掲示し利用開始時には文書により家族に知らせている。また、職員が苦情等を把握した時には管理者や他の職員と共有し解決を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員主体の委員会を設立し、離職防止策に工夫している。職員の交代がある場合は引継ぎを十分に行い、お便りの中で紹介するなど入居者へのダメージを防いでいる。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会が定期的に行われ、施設外研修については職員に紹介し、受講費用は事業所が負担するなどの配慮がなされている。段階的に職員を育成するため、人事考課に研修指針を組み込むなど工夫がみられる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホームを招待し交流会を行い、職員が交代で研修会や交流会に参加している。また地域密着連絡協議会を立ち上げるなど積極的に交流の機会を設ける工夫がみられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にできるだけホームの見学をしてもらい、見学に来れない方には管理者が出向いて顔馴染みの関係を作り、利用されている医療機関から看護サマリーをもらうなどの取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者が、共に支えあい暮らしていくという気持ちを持ち、体を動かすレクリエーションや音楽活動等も頻繁に行われており、一緒に活動したり、楽しんだりする機会を多く設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時には本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取りケア会議などで職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を踏まえケアマネジャーと職員が話し合い介護計画を作成している。主治医にも意見を聞くなど、丁寧な連絡が取られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画について定期的に詳細なモニタリングを行い、変化の兆しがないか見直し、まとめられている。入居者の状況に変化があり介護計画の見直しが必要な時には、ミーティングを開いて計画の見直しを行っている。ただ、一月ごと行う介護計画に対する評価が確認できなかった。	○	安定している利用者の場合も、月1回程度の介護計画の評価、見直しを行われていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	退居者へのフォローや買い物の支援や通院介助、家族の宿泊の支援など臨機応変な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居前からかかっている医療機関に本人や家族の意向を大切に決めていく。受診時も適切な治療が受けられるように訪問診療指示伺いを利用し情報提供に努め、良い関係がつけられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員で作成した重度化や終末期に対する対応指針を定め、家族に説明し同意をもらっている。また、その後も本人や家族、かかりつけ医と相談し職員の共有も図っている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等は外来者の目に触れないように事務室の鍵のついた棚に保管している。入居者への日頃の声かけについては個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは本人の体調などを配慮し、外出やリハビリなど本人の意向を確かめながら決めていく。入居者の体調にあわせた喫煙や晩酌の支援も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の希望や食欲を引き出すため、テレビ番組やチラシを利用した工夫をしたり、自家菜園の旬の食材を利用し、下ごしらえを一緒に行うことで食への興味を持ってもらっている。食事は職員も一緒に会話を楽しみながらとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隣にある温泉施設より温泉をひき、一人ずつお湯をはりかえている。また決まった入浴日はあるが、それ以外の日でも入浴やシャワーなどの対応ができる。入浴を嫌われる方には声かけするなど気持ちよく楽しめる工夫がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や洗濯、自家菜園での野菜や花作り、お菓子や漬物づくりなど、一人ひとりの生活歴や力を見つけて出し、支援に努めている。訪問時も楽しくドラ焼きを作っている姿が見受けられた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や天候に応じて近くの商店街に買い物や散歩などで日常的に屋外に出るように支援している。また、定期的にドライブや地域行事への参加を支援するなど外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。職員は、入居者の状態を把握し、入居者一人ひとりのサインを見逃さず、さりげなく一緒に散歩にでるなどの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時のマニュアルを作成し関係施設や地域の消防団への協力を呼びかけ、夜間体制が含まれた避難訓練が行われている。非常時の備蓄は法人で管理されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の嚥下体操や口腔ケアが行われ、食事の量や水分摂取量は個人別の記録に全員記録されている。排泄状態も参考にしながら健康状態が把握され、より快適な生活が送れるようにケアに活かされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には絵画や花が飾られ、リビングではテーブルやソファで思い思いにくつろぐことができるスペースが確保されている。リビングは調節されたあかりが心地よく、心やすらぐ家庭的な雰囲気がたどよい、居心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には位牌・テレビ・家族写真やお便りなどが飾られ、利用者が自宅と同じように居心地よく過ごせるような配慮がなされている。		